

令和4年度 宝塚市自立支援協議会 専門部会活動経過報告書

- けんり・くらし部会<地域生活G r>活動経過報告・・・1
- けんり・くらし部会<地域移行G r>活動経過報告・・・3
- しごと部会活動経過報告・・・・・・・・・・・・・・7
- こども部会活動経過報告・・・・・・・・・・・・・・12



令和4年（2022年）11月
宝塚市自立支援協議会

● けんり・くらし部会<地域生活 Gr> 活動経過報告

第1回 けんり・くらし部会<地域生活 Gr>会議議事録	
日時・場所	令和 4年9月6日(火) 14:00 ~ 16:00 総合福祉センター 2階 201・202号室
出欠者	出席者9名
	次回予定 令和4年(2022年)10月28日(金) 10時~12時 スマレン横会議室
議題	内容(決定事項等について)
1. 自己紹介	
2. 地域とのつながりについて	<ul style="list-style-type: none"> ・活発な地域では、登校が出来ない子どもに、地域の人がサポートをしている。 →まちづくり協議会や民生委員の方の協力が必要。 ・参加の意識が大切。外に出ていくことで知ってもらえる。 話をする事で視野が広がる。 →安心、安全ならば出かけていける。 ・スポーツに関しては、パラスポーツなど周知はされている。 →誰でも参加可能だが、限られた人しか参加がない。 ・皆でつながれる場所、つどえる場所。 <ul style="list-style-type: none"> (1) 福祉だけではなく、多様な人のつどいの場 (2) 障害(がい)者施設のアンテナショップ (3) 引きこもりの人が手伝える、就労体験の場 →総合福祉センター1F『みんなのかふえ ひまわり』オープン。 →かふえひまわりに携わっている部会員より、かふえひまわりの資料配布ならびに活動の報告。 現在、活動もしているが、ひまわりのことを知ってもらおう周知活動もしている。 ・精神障害(がい)のことを知ってもらいたい。 →宝塚家族会として、民生委員の定例会に参加。 研修の案内や体験談を話すことが出来て、つながりがもてた。 ・コロナ禍でかかりつけ医がクローズアップされている。 →かかりつけ医に電話で相談をして、処方箋で済ますことが出来てありがたかった。しかし、医療的ケアが必要な人の場合、自分の障害(がい)についての専門医はいるが、体調面のかかりつけ医

	<p>がない。</p> <p>⇒かかりつけ医をもてれば、地域ともつながれる。</p> <p>⇒かかりつけ医にどこを担ってもらう、どこから出来るか等、一緒に考えていければと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校では教育委員会は医療的ケア児のガイドラインを作る会議をしている。しかし、児のみで者になった場合はどうなるのか。また、学校や児童発達支援センターの看護師の定着率も低い。 ・医療的ケア児はなるべく保護者がつきっきりで介護しないようにしている。しかし、者になると、保護者が対応する機会も増える。 →余暇にもっと選択肢があればと思う。 ・精神障碍（がい）の人の訪問看護は、医療面のケアのみではなく、来てもらって話をするという安心感にも繋がっている。 ・まちづくり協議会への働きかけについては、担当課に伝えている。しかし、会議では、高齢者の人の話は出ても、障碍（がい）のある人の話は出てこない。 →障碍（がい）福祉課より、計画に書いていて進んでいないことは意識付けしてきてほしいことを担当課へ伝えている。
--	--

【今後について】

・障碍（がい）のある人が生活をしやすいするために出来ていないことを報告するのか、出来ていることを報告するのか、現状としては曖昧。

考える対象は、障碍（がい）がある人、フォローをしないといけない人、数が多い人、少ない人なのか。

→宝塚市に住んでいる住民には、同じ問題や生きづらさが起きている。

⇒障碍（がい）別ではなく、共通のところがあるはず。

⇒障碍（がい）分野を担当しているスミレンにも、感じていることを本部会で話してほしい。

まだ出し合えていない。

・それぞれの立場で意見を言っており、かかりつけ医、医療との連携という課題は明確。自立支援協議会の定例会で話し、全体会にあげていくことが必要だと思う。

どのように解決をしていくかは、全体会で解決に向けて協議していくべき。

・継続しているもの、課題の整理は富澤部会長と事務局と協議をしていく。

部会で報告されたこと（できていること、できていないことの両方）を委員で共有し、それぞれの立場で取り組むこと、部会として取り組むことを整理する。

昨年度からの持ち越している課題は、「医療との連携、かかりつけ医の確保・活用」

「まちづくり協議会への働きかけ」であり、部会として取り組むことを明確にしておく（例：好事例集の作成など）。

● けんり・くらし部会<地域移行 Gr> 活動経過報告

第1回けんり・くらし部会<地域移行Gr> 会議議事録	
日時・場所	令和4年7月19日(火) 13:30~15:30 宝塚市立中央公民館 208 学習室
出欠者	出席者 12名 欠席者 4名
議題	内容(決定事項等について)
1. 常任委員紹介	○部会長、副部会長承認。 ○各委員の自己紹介(所属、名前)
2. 令和3年度 自立支援協議会 全体会の報告 及び 自立支援 協議会の組織図 について	○基幹相談支援センターより説明。全体会資料及び組織図参照。
3. 昨年度の振 り返りと、地域 移行を考える会 報告	○事務局より説明。全体会資料 19 ページから 30 ページ参照。 ・部会長による「意思決定支援について～地域移行支援を行うために必要なこと～」の講義。 ・精神科病院に入院されている方への取り組みについて、他市及び宝塚市の取り組みを知る。 ・「ほっとたからづか～こころの病を経験したら～」の活用法について検討。 ・地域移行を考える会の報告。 ・次年度に向け、協議内容検討。考える会からの課題抽出の一案が出る。
4. 今年度の取 り組みについて	○委員より、今年度の協議テーマについて意見を出し合う。 ・地域移行はそもそも進んでいるのか？進んでいないのか？ ・コロナで地域移行は進んでいないし、難しい状況。退院したいという声が上がらないとアプローチしづらい状況。また、病院は経営の問題もあるので、理念だけでは動かないものでもある。 ・記憶違いかもしれないが、以前国の施策で精神科病院に地域移行専門の相談員が置かれたと聞いたが、どうなっているのか？ ・差別や偏見、啓蒙活動も必要になるのでは？ ・本当に重度で退院できない人はごく一部、すごく少ないのではないのか？ほとんどの人が地域に出て暮らせるはず。

	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者権利条約 パラレルレポート 19 条に地域移行の課題の記述有。これを勉強するのはどうか？ ・病院がトントンと肩たたきさえしてくれれば退院できる人はたくさんいるのでは？そのツールとして、地域生活 Gr のワーキングで作成した「ほっと♪ たからづか」を活用することも一つ。 ・警察としても地域の相談支援窓口へもっと情報提供もできると感じた。 ・これまで地域で暮らしていた身体障碍（がい）のある方が、介護保険移行後の生活について不安を感じ施設入所を希望されたり、知的障碍（がい）のある方が高齢化、重度化、機能低下などの理由により在宅での生活等が難しくなり入所したいという相談も増えている。 ・地域で生活していた方が入院した場合の計画相談は途切れるのか？また、その場合相談支援から本人に会いたいとなった時に会うことはできるのか。 <p>※挙げられた意見も考慮しつつ、今年度の協議テーマについては事務局及び三役で協議することとする。</p>
5.その他	

第 2 回けんり・くらし部会<地域移行G r > 会議議事録	
日時・場所	令和 4 年 9 月 26 日（月）13：30～15：00 宝塚市役所 2-4 会議室
出欠者	出席者 11 名 欠席者 5 名
議題	内容（決定事項等について）
1.今後のけんり・くらし部会について	<p>○基幹相談支援センターより、部会再編案について説明。 ※別紙参照</p> <p>「障害福祉サービス及び障害児通所支援等の円滑な実施を確保するための基本指針」及び「宝塚市第 5 次障碍（がい）者施策長期推進計画」から再編を検討した経緯を説明。「けんり・くらし部会 地域生活グループ」を「くらし部会」に、「けんり・くらし部会 地域移行グループ」を「けんり部会」とし、他の部会と横並びの関係にする。「けんり部会」では、今まで協議してきた地域移行だけでなく、意思決定支援や成年後見制度の利用等、権利擁護の視点で幅広く議論展開していくことができると考えている。</p> <p>○質疑応答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・再編後の委員構成は変わるのか？⇒権利擁護関係の委員も加えたも

	<p>のなる可能性はあるが、現時点では未定。今後検討することとなる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料 11 ページにある、けんり・くらし部会要綱の記載⑥は、けんり部会の協議内容として含まれないのか？⇒①～⑤に乗らないものはすべて⑥の捉えであり、⑥は含まれるとの考えになる。 <p>○今後のスケジュールについて</p> <p>10月に地域生活グループに説明予定。その後、10月18日定例会、11月4日全体会に議題で再編について提案予定。了承されれば、要綱の改正の流れとなる。</p>
<p>2. 地域移行を 考える会 報 告</p>	<p>○事務局より報告</p> <p>令和2年10月に地域移行を考える会を発足。当初は、任意入院で長期入院となっている方の「声をひろいあげる」ことを目的とし、精神科病院への訪問、不特定多数の方に会えるよう病棟プログラムに参加することを目指していた。しかし、コロナ禍となったことで精神科病院への訪問そのものが難しくなり、病棟への出入りは不可となった。その為、今できうることを改めて考えることとし、一例として以下の案が挙げられた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病院から対象者を挙げてもらう仕組み ⇒西宮市や尼崎市のように、精神科病院から対象者を挙げていただき個別支援を行う方法。個別支援であれば、オンライン面会等病院が可と認める方法で対象者に会い、退院支援を行うことができる。実際にどのような方を対象者とするのか、どのように受け入れていくのか等検討は必要だが、保健所から病院の橋渡しについては協力したいとの声がある。 <p>○質疑応答、意見等。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健所との連携は進んでいきそうか？⇒一緒に考えていくことはできると感じている。 ・挙がってきた対象者について誰が話すのかはとても大切。ピアサポーターだと初対面でも心が緩むのではとも思うし、コロナ禍で難しいことは承知だがどこで話をするのかも大切。丁寧に話を聞き取ってもらえたらと感じる。 ・挙がってきた声は相談支援の7つの地区割にそって受けていくのか？⇒具体的にどのように受けるのかは協議が必要だが、基本的に地区割で受ける可能性はある。ただ、宝塚方式としてどこか1か所が担って終わりではなく、皆で考える、支援していく形を検討したい。 ・本人が退院、退所したいと思った時に家族の意向は影響あるのか？⇒家族と一緒に暮らすのか暮らさないのかでも変わるし、今までの出来事に対しての家族の意向は一定聞くことにはなる。一番は、本人がどうし

	たいのかという思いを聴きながらとなる。
3.その他	<p>○宝塚家族会より研修案内 阪神地区精神保健福祉研修会開催の案内 日時：令和4年11月10日（木）12：45～16：10 場所：三田市 まちづくり協働センター6階多目的ホール テーマ：ー地域共生社会を目指してー 精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムについて 『地域共生社会において家族の立場でできること』</p> <p>○今後の部会で検討したい議題について 「けんり」という内容で話ができればとは思いますが、意思決定支援や成年後見制度以外にも虐待・差別・触法等様々なテーマが考えられる。委員が日頃業務遂行等で感じる「あれ?」「これってもしかして...」を出し合うことも一つ。また、一つのテーマで協議をしていくだけでなく、2時間ある中で2つ3つと協議することもできるかを感じる。次回以降も含め、今後意見を出し合うことができればと考える。</p>
次回開催予定	令和4年12月6日（火）13：30～15：30 宝塚市役所 2-4 会議室

【今後について】

定例会・全体会を経てではあるが、次年度から「地域移行グループ」が再編され「けんり部会」となる流れがある。今までは「地域移行」が協議テーマであったが、今後は「地域移行」も含めた「権利擁護」が協議テーマとなり、その内容は多岐にわたる。今後は次年度も見据えた課題整理と展開を検討する予定にある。

● しごと部会 活動経過報告

第1回しごと部会 会議議事録	
日時・場所	令和4年5月19日 13:30~15:00 市役所 3-1 会議室 および Zoom
出席者	出席者 16名
出欠者	次回予定 令和4年7月21日(木) 13:30~15:00 リモート形式・3-1 会議室
議題	内容(決定事項等について)
1. 宝塚市自立支援協議会について	・基幹相談支援センター事務局より、自立支援協議会の説明。
2. 自己紹介	・委員・事務局それぞれが、所属団体の紹介・活動内容、自身の職務などを交えて自己紹介を行う。
3. 共同受注窓口グッドジョブからの報告	<ul style="list-style-type: none"> ・グッドジョブ理事長より、グッドジョブ設立の経緯、現在の状況などの報告。 ・市内の通所施設の工賃の向上を目的として、6年前より検討を行い法人化、市から補助金を受けて運営しているため、毎回、しごと部会で報告をしている。 ・2か月ごとに定例会・運営会議を実施している。 ・現在、会員は24事業所、21年度の収支は613万円。
4. 自立支援協議会全体会の報告	<ul style="list-style-type: none"> ・基幹相談支援センター事務局より、3月に全体会を開催予定であったが、コロナの影響で、書面報告となったことの説明。 ・基幹相談支援センター事務局より、各部会の報告書の概要について説明。 <ul style="list-style-type: none"> ○しごと部会：グッドジョブの実績、オンライン開催の福祉事業所説明会の報告。 ○地域生活 Gr：精神科病院に読んでもらう小冊子を作成し、精神科病院等に配布。今年度は、冊子の配布先の検討、他市の障害理解の取り組みなどの勉強、まちづくり協議会からのヒアリングなどを予定している。 ○地域移行 Gr：精神科病院との連携を進めていく予定であったが、コロナ禍で難しかった。地域移行の促進を図るために、委託相談支援事業所を交えて、宝塚での地域移行について検討している。 ○こども部会：放課後等デイ・学校・保護者のトライアングルプロジ

	ェクトについてなどを中心に協議。
4. 年間計画について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 部会長より、年間計画の説明がある。 ・ 事業所合同説明会は、コロナ感染症の状況を鑑みながら、対面開催とオンライン開催の同時並行で開催したい。 ・ 昨年度と同様に、部会前に事前課題（お題）を提示し、会議までに各所属団体の意見集約をして会議に参加してもらいたい。 ・ 会議中、専門用語など分からないことがあれば、その場でも、会議後でも、メールでも電話でも構わないので、聞くことができる部会にしたい。
5. その他質疑等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域移行の件数について、市として実施した件数を知りたい。 → 地域移行はサービスになるため、委託相談支援事業所が中心に動くものである。件数的には伸びていないため、伸びていない課題を部会等で協議している。 → 以前、関わっていた伊丹では I C C C が天神川病院に出入りして、地域移行を積極的に実施していた。宝塚に引っ越ししてきて、地域移行が進んでいないのはどうしてかなって思っていた。ピアが福祉で働くとなると、地域移行で働くことが多いが、宝塚では聞かない。地域移行は、職員だけでも進められる。宝塚でも進めていってもらいたい。 → 個別では頻回に病院への訪問や連携をとっている事例は多数あるが、組織的に進めればと思っている。長期入院される方への支援体制については課題だと感じている。

【今後について】

- ・ 宝塚市合同福祉事業所説明会について
- ・ 事前課題の共有

第2回しごと部会 会議議事録	
日時・場所	令和4年7月21日 13:30～15:00 市役所 3-1 会議室 および Zoom
出欠者	出席者 13名
	次回予定 令和4年9月22日（木）13:30～15:00 リモート形式・3-1 会議室
議題	内容（決定事項等について）
1. 共同受注窓口グッドジョブからの報告	<ul style="list-style-type: none"> ・ R4年度の市からの補助金 462万9千円、主に人件費として使用。 ・ 新規の屋外作業の依頼が増えている。（新規4件）

<p>2. 宝塚市合同福祉事業所説明会について</p>	<p>【今までの開催状況】 (R1 年度まで)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 7 回アピアホールで開催 ・ 各事業所がブースを設け、学生・家族・学校関係者・福祉支援者・行政などが興味のあるブースで説明を受ける形式。 <p>(R2 年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ感染症の状況を鑑み、中止。 <p>(R3 年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Zoom の講義形式で、プログラムに沿って各事業所が説明、参加者は視聴する形式。 ・ 当日は、25 事業所。のべ 120 名から 150 名が参加。 <p>【今年度の開催について】 (三役からの提案)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ感染症の状況で中止することなく、確実に開催できる方法として、オンラインで開催したい。 ・ 昨年度、機材トラブルなどの課題もあったため、今年度は参加事業所のみ 1 か所に集まり、発信する形式で開催したい。 ・ 8 月に作業部会を立ち上げ、準備に入りたい。作業部会メンバーは三役から打診。 <p>(各委員からの意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年度は、日曜日開催であったため参加できない方もいた。参加する側としては、土曜日開催の方が良いのでは。 ・ 開催日の周知は、できるだけ早い方が、参加者の予定が立てやすい。 <p>(決定事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ オンライン開催。 ・ 土曜日開催で調整。 ・ 8 月中に作業部会を発足、メンバーは三役から打診。
<p>3. 事前課題の共有</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 下記事前課題について、各委員の考えを共有する。 <p>①あなたにとって「はたらく」とはなんですか</p> <p>②あなたは対象者とかかわりを持つ中で、はたらく力や適性をどのように考え、評価していますか。または、仕事（雇用飛行用、条件問わず）と一緒に選択していく際に、どのようなことを大事にしていますか。</p> <p>(次回課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 回答に対するコメントを全委員が行う。

【今後について】

- ・ 宝塚市合同福祉事業所説明会について

第3回しごと部会 会議議事録	
日時・場所	令和4年9月22日 13:30 ~ 15:00 市役所 3-1 会議室 および Zoom
出欠者	出席者 13名
	次回予定 令和4年11月17日(木) 13:30~15:00 リモート形式・3-1 会議室
議題	内容(決定事項等について)
1. 共同受注窓ログッドジョブからの報告	<ul style="list-style-type: none"> ・2事業所の退会があった。市内には新しい就労事業所が増えているため、参加の声掛けを行っていく予定。 ・SDGsの流れで、ホテルなどの使い捨てのアメニティを止める所も増えており、依頼が減っている。屋外作業の依頼は増えている。 ・屋外作業の依頼に対し、参加してもらえる会員事業所が増えてきている。
2. 宝塚市合同福祉事業所説明会について	<p>(日程)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11/26(土)・12/10(土)のどちらかで開催予定。 <p>(開催方法)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加事業所は、1つの会場に集まって、プレゼンを行う。 ・参加者は、YouTube ライブで視聴する。(前回のZoomのセミナー形式よりハードルが下がるため、参加しやすくなる) <p>(作業部会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月~作業部会を発足させ、オンラインチャットで協議を重ねている。 <p>(事前資料・チラシ)</p>
3. お題に対するコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・前回実施した、「お題」の内容を踏まえ、今後、しごと部会として検討する内容について協議する。 ・三役でテーマを決め、次月以降、具体策について協議していく。 ・協議を円滑に進めるため、作業部会も立ち上げる。 <p>(各委員からの意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年も協議した、社会的貢献ではない雇用のあり方として、障害者であっても戦力として採用されるための支援について各立場で考えていく必要がある。 ・特別支援学校を卒業したあと、すぐ就職となる現状に疑問がある。特別支援学校卒業後に職業教育を受けることができる環境が必要。特別支援学校大学部のようなイメージ。 ・教育・福祉・企業など、ステージごとの支援者のつながりが大切である。加えて、支援者自身が次のステージで求められていることを知っているか。しごと部会として、情報を共有・発信していきたい。

4. 西宮北事業所合同説明会について	<ul style="list-style-type: none"> ・参加した事業所からの報告がある。 ・7月のコロナ感染症拡大の時期での開催であったため、参加者は少なかった。 ・事業所同士での交流の機会になった。
--------------------	---

【今後について】

- ・宝塚市合同福祉事業所説明会について
- ・「お題」もとにした取り組みについて

● こども部会 活動経過報告

第1回こども部会 会議議事録	
日時・場所	令和4年6月1日 13:30~15:30 市役所 2-5 会議室/ZOOM
出欠者	出席者 17名・事務局 4名 欠席者 委員 4名
	次回予定 令和4年(2022年)8月3日(水) 13:30~15:30 市役所 2-4 会議室 および リモート形式
議題	内容(決定事項等について)
自立支援協議会の組織図について	基幹相談支援センターより説明。
部会長・副部会長の承認について	昨年度の部会長の辞任の申し出により、部会長と副部会長を選任。
自己紹介	各委員の自己紹介(所属・名前・好きな事・こどもとの関わりについて)
令和3年度 専門部会の報告	<p>全体会は2回とも中止(活動結果報告書として報告)</p> <p>■しごと部会 宝塚市共同受注窓口(グッドジョブ)の実績報告 福祉事業所合同説明会(ワライ)開催結果、働く上での課題を今年度検討</p> <p>■けんり・くらし部会 ・地域生活 Gr: 障碍(がい)に対する地域での理解についての議論。他市の取り組みや地域住民の声を聞き取っていく。 ・地域生活 Gr (ワキグ): 精神科病院に入院している方に向けた小冊子を作成。精神科病院へ配布。限られた数の中でどこに配布するのか今後検討。 地域移行 Gr: 長期入院されている方へのアプローチについて議論中。委託相談支援事業所にて”地域移行を考える会”が発足している。</p> <p>■こども部会 性教育の講演会に向けて・トライアングルプロジェクトの経過確認・今後支援マップの作成を進めていく。</p>
性教育の講演会開催について	申し込み状況の確認を事務局より行う。(5/31時点で62名) まん延防止等重点措置等発出された場合はオンラインのみの開催になることについては申し込み時に承諾いただいている。

	開催に向けて、当日のお手伝いをして頂ける方はコミセンへご連絡を。
支援マップ作成について	<p>今年度のメインとなる。全体の流れが分かるようなマップにしていきたい。</p> <p>他市の支援マップを参考に、どのようなマップが必要なのか、各委員に意見を聞き取る。※下記参照</p> <p>■課題 誰を対象にどのようなものを作るのか？（相談の入り口／具体的な支援）</p> <p>■今後の動き</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誰が誰に渡すのか。各部署で検討。 ・すでに部署で活用したり、配布されているパンフレットなど資料があれば事務局までデータか障碍（がい）福祉課のメール便コミセン宛に。（6月末まで）
トライアングルプロジェクトについて	<p>6月中に、小学校1年生と中学校1年生に資料配布する。</p> <p>昨年度に続いて、困難事例・好事例の共有を継続していく。</p>

※支援マップ作成に向けての意見

【対象者】

- ・障碍（がい）のあるなしに関わらず、広く渡せるもの。
- ・障碍（がい）受容しているのかにもよる。
- ・色々な人に受け入れてもらえるもの。（検診等で渡すのであれば、やわらかい言い方がいい）
- ・相談のきっかけになるものなら検診で全世帯お渡しできる。

【内容】

- ・全体を支えられるもの。
- ・目的・誰に渡すのかで内容も変わる。
- ・障碍（がい）受容していない方にはやわらかい言い方。
- ・不安がある方が受け入れやすいもの。
- ・相談先が分かりやすいもの。
- ・保護者もみんなが読みやすい、難しくないもの方がいい。
- ・内容が薄くなると、障碍（がい）をもっている親としてはわかりにくい。
- ・発達など気になる人に渡すならしっかり説明できるものでないと受容が難しい。（問題視していない親も多い）
- ・資料は保護者はたくさんもらっている為、1枚にすると破棄されることは多いと思う。（保存版等にするのか？いつでも渡しやすいものにするのか）
- ・障碍（がい）に対する受容の入り口には色々な情報が必要。
- ・学校では1人1人のケースによって対応が多様。→教員が社会資源を知れるもの。

- ・今ある宝塚市の冊子をどうするのか。集約するのか？どこを作り上げていくのか。ダブっているものも多く、精査していく必要有。
- ・子育てなんでも相談では気づきのマップを渡せたら。
- ・入口の気づきの分と詳しいものと2つ作るのか、目的を明確に。
- ・渡せる窓口がどこで渡せるものなのかによって作るものが変わってくる。

【各機関での現状・取り組み】

- ・健康センターでは3歳検診で発達障碍(がい)のリーフレットは一般的な事を知ってもらう意味でお渡ししている。
- ・相談があった時には、「たからばこ」・「障碍(がい)者(児)福祉ハンドブック」・「子育て情報きらきら」を参考にしている。
- ・保健所は必要と感じて保護者から連絡が入ることが多い。

【参考】

- ・全員に配るのであれば赤穂市／具体的なものであれば一宮市。
- ・まずはリーフレット等、現状どのようなものがあるのかを把握することから。

第2回こども部会 会議議事録	
日時・場所	令和4年8月3日 13:30~15:30 市役所 2-4 会議室/ZOOM
出席者	出席者 13名・事務局4名 欠席者 委員8名
出欠者	次回予定 令和4年(2022年)10月5日(水) 13:30~15:00 市役所 2-4 会議室 および リモート形式
議題	内容(決定事項等について)
性教育の講演会について	講演会后アンケート報告(事務局より) ・参加者は家族と支援者が半数ずつ。 ・参加者の9割以上が期待通り、期待以上であった。 ・多くの方が性教育の必要性を感じてくださる内容であった。 アンケート結果を元に、様々なニーズを把握できたため、今後もこども部会で取り組めることを検討していく。
支援マップの作成について	委員アンケート報告を事務局より行い、委員で協議を行った。 部会長より ・全体を見通せるフローチャートが必要という意見が多いのではないかと。 ・具体的な内容についてはこれから相談、将来の見通しが持てる物を。 ・4か月健診等、健診時に市内の人が皆見られる資料があればいいのでは。 ・宝塚市「きらきら子育てメール」について。登録無料で出産後100日

	<p>までは毎日、1歳までは3日に1回、2歳までは1週間に1回、3歳までは月2回程度、発達の様子や1人で抱え込まずに相談をしていただくようなメールが届く。(子ども未来部 子ども家庭室 子ども家庭支援センターとNPO法人きずなメールプロジェクトが協働で配信) →協働していけることもあるのではないかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他市ではアプリを活用しているところもある。(予防接種や検診、不安等知りたい内容がすぐ見られる) <p>《グループワーク》</p> <p>①どのような内容にするのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就学前について、ここ10数年で障碍(がい)受容が進んできて、就学時に障碍(がい)受容をして入学してこられる方が増えた。一方その分就学前の保護者へのフォローが少ない為、就学前にもフォローできる内容が良い。 ・1歳半・3歳健診等、言葉の出方で発達の遅れ等に気づくことが多い。 →現在はたからばこがあるため、改めて作成するかは別。 ・保護者が情報が足りないと感じてくるのは就学後ではないか。学校としては何かのルールに乗せて案内するというより、ケースごとに対応している実態。 ・簡単に伝えて行けるもの。 ・全ての子どもに渡せるもの(気づかない人に対しての気づきにもなる) ・年代別・ステージごとに対応したもの。 ・今ある社会資源のインデックス代わりに、丸ごと活用していけるようなもの。 ・幼稚園→小学等、隙間で相談場所がガラッと変わり、情報を得る機会が少ない人もいる(就労や繋がりを求めない人)が、共通して情報が得られるもの。 ・相談をどこに問い合わせたらいいか分からない、一つ窓口があれば嬉しい。 ・障碍(がい)は18歳で終わるものではない、0歳～高齢になっても活用できるものが良い。 <p>(他の部会との連携)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談できる機関が載っているもの。 <p>②どのように配信・配布するのか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アプリは時代に合っているが、実際に作成する際、専門家の力が必要になり現実的に可能なのか。 ・情報にたどり着けない人もいないのではないかな。 →紙ベースでQRコードを活用するのはどうか。
--	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・全員に配って良いものであるが、全員に配ると、目にとまらない可能性が大きい。「不安」「ひっかかる」と思う時に情報が欲しいため、その時に渡せる方法が良い。 ・関係機関はどこでも持っておいてよいものだと思うが、お渡しできる市役所の窓口を決めておけるとわかりやすいのでは。 <p>③作成方法について</p> <p>部会だけでは限られている為、実情を知っているグループでたたき台を作成し、部会で共有する形が良いのではないかな。</p> <p>今後、大きな流れのたたき台をつくるメンバーについて →部会長・事務局から声を掛けていく予定。</p>
<p>トライアングルプロジェクトについて</p>	<p>《情報共有》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トライアングルプロジェクト（学校、保護者、放課後等デイサービス）の中に相談支援が入れておらず、情報の取りにくさを感じている。なかなか連携が進まない。 <p>→積極的にトライアングルプロジェクトに関わっていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校では、対象となる児童の人数が多く、全ケースをカバーしていく難しさを感じている。 ・福祉サービスの更新が誕生日月のため、学校へ相談に来るタイミングがバラバラ。まずは計画相談のサービス等利用計画や通所事業所の個別支援計画を担当に目を通してもらうところからではないか。 ・放課後等デイサービスの事業所数が増え、1つの学校で複数箇所（多ければ10か所以上）と関わっている。 ・支援者が集まって、今後の方針などを話していけることがベストであるが、放課後等デイと学校の対応できる時間がずれるため、時間を取りづらい。 ・放課後等デイサービスと学校の間で相談支援が間に入って学校とやり取りができればよいのではないかな。 ・学校の教育支援計画や放課後等デイサービスの個別支援計画等、すべてをたからっこノートに全て挟んで担任や支援級担当教諭に渡すようにしている。（子どもの情報がわかるものは全て1つにまとめるようにしている） ・10年前と比べ、たからっこノートの活用も進んできている。（就学前相談でお渡しをしているが、すでに持っている方も多くなってきている） ・連携会議、保護者が軸となり相談員にも声を開けてもらい実施し

	ていく方向性で動いている。とても意味があり、困りごとを共有し、対応を統一することで課題が改善したケースもある。
--	---

【今後について】

- ① 支援マップの作成について協議を進めていく。
- ② トライアングルプロジェクトの事例共有。
- ③ 新たなニーズの把握。

こども部会第1回支援マッププロジェクトチーム会議 会議議事録	
日時・ 場所	令和4年9月12日(月) 13:00~14:00 3-1 会議室 および Zoom
出欠者	出席者 委員6名・事務局4名 欠席者 委員1名
議題	内容(決定事項等について)
	<p>支援マップを作成するにあたりプロジェクトチームを結成、話し合った。</p> <p><u>内容についての意見</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自立支援協議会こども部会」で作るという認識を持って作成。 ・保護者が不安にならないような内容。 ・「たからばこ」や子ども発達支援センターが作成した放課後等デイサービス事業所一覧などの既にあるものを活用できるよう、情報を集約。 ・発達について気になる時期はそれぞれ。年齢によって困り事の内容も変わってくる。それぞれの年代に必要な情報を集約。 ・宝塚市の相談支援体制が地区割になっているため、学校との連携が今後も進んでいくと思われる。そのことも盛り込む。 ・支援者が福祉についての理解が深められるような内容。 ・情報がなくて孤立してしまわないように、保護者同士が繋がれるような情報を。 ・先輩の保護者の意見も入れる。 <p><u>対象についての意見</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・育ちの環境は様々。育ちについて不安に思った時にいつでも見ることができるよう、対象者は広くする。 ・いきなり障碍(がい)と認めたくないけど、どこに相談したらいいのだろうと不安を感じている方に。 ・周りに同じような人がいないと置いて情報得られなかったり、誰とも繋がろうとしていない方。 ・障碍(がい)のある方、あるかもと思っている方どちらにも。 ・子ども自身が困ったときに手に取れる。 ・支援者。

	<p><u>配布・周知方法についての意見</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園や保育園など、だれでも手に取れる場所に置いてほしい。 ・紙が良いのか。全員に配るのか。 ・インターネットの活用。 ・ネットで検索したときに、この支援マップがヒットするようにする。 <p><u>まとめ</u></p> <p>困り感や不安からスタートして、「療育」とは・・・の説明を入れながら、障碍(がい)の有無ではなく、保護者も、子ども自身も、支援者も見ることができる。紙だけでなく、ネットで検索しても出てくるようなもの。先輩の保護者の声も入れたものにする。</p> <p>10/5の部会にて委員で共有する。</p>
--	---

【今後について】 数年かけて、支援マップを作成していく。

第3回こども部会 会議議事録	
日時・場所	令和4年10月5日 13:30~14:40 場所 市役所 2-4 会議室/ZOOM
出欠者	出席者 17名 事務局 3名 欠席者 委員 2名 事務局 1名
	次回予定 令和4年(2022年)12月7日(水) 13:30~15:00 市役所 2-4 会議室 および リモート形式
議題	内容(決定事項等について)
宝塚市自立支援協議会定例会・全体会の開催について	基幹相談支援センターより 宝塚市自立支援協議会 10/18 定例会(市役所)、11/4 全体会(西公民館)が実施される。
支援マップの作成について	9/12(月)プロジェクトチーム会議実施報告 ※内容の詳細については別紙参照(宝塚市自立支援協議会こども部会第一回支援マッププロジェクトチーム会議) <内容と進め方についての意見> ・枠を決めてから内容を決めるのか、内容を決めてから削っていくのか。 ・ネットを使う人が多いため、QRコードが入った用紙を配布してサイトにアクセスするのはどうか。 ・こどもの気になる行動(やんちゃ・泣き止まない等)の項目を作成して選択できるようにするのはどうか。 ・こどもが自分で手に取れるようにすることや、園や学校の先生、関係機関も情報提供できるようにするのも大事ではないか。

	<ul style="list-style-type: none"> ・3歳児健診だけを視点にしない方がいいのではないか。 ・パンフレットにどういことを伝えたいかを各部署が出し合い、模造紙に付箋で貼りジャンルごとにまとめ、その後各関係機関で詰めていくのはどうか。 ・小学校に上がるタイミングなど、生活状況が変わった時に配布されると目に留まりやすいのではないか。 ・孤独にならないようにする→保護者同士で悩みを共有することは大事ではないか。 ・情報だけが入ってそこで抱え込まないようにすることも必要。 ・実際に子育てをしている人(障碍(がい)があるかもしれない人)の声を聞くのはどうか。 ・縦軸(年齢)と横軸(医療・福祉・教育等)で考えた時に、この情報はどこの軸に当てはまるのか等検討していく必要がある。 ・放デイの活動情報等少しずつ変わっている。新しい情報をすぐにアップデートできるようにするのも大事では。 ・情報がたくさんありすぎるとしんどい保護者もいるため、保護者の方が必要な情報を選択できるようにする必要があるのでは。 ・保護者の方が疑問・不安に思う最初のとっかかりの所に焦点を絞って提示するのはどうか。 ・知りたい情報を誰もがすぐにわかるものが良いのでは。 ・入り口で難しい病名を書かれると、拒絶反応やハードルの高さを感じる。病名よりも症状を具体的に提示し、誰もが簡単に見ることができるものが良いのではないか。 <p><今後の方向性></p> <p>まずは全体像を把握。対象年齢によっても知りたいことは様々。それぞれの機関で伝えたいことを出し合い、大きな括りが把握できる。その後、グループに分かれて内容を具体化していく。</p> <p><作成期間></p> <p>2024年3月完成予定。総合支援拠点が開設されるため、こども部会独自のものを作成していく。</p> <p><次回></p> <p>各部署・施設で何を伝えたいかを検討してくる。伝えたいことを付箋に書き全体像を把握する。</p>
<p>トライアングルプロジェクトについて</p>	<p>《情報共有》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不登校気味の学生の放課後等デイサービスの使い方について。 <p>学校、障碍(がい)福祉課と連携しながら毎月モニタリングを実施し、学校に行けるようになることを目的に、学校に行かなくてもデイ</p>

	<p>サービスを使っていく方向となった。</p> <p>・学校の先生と放デイの先生の時間帯が合わないことが連携の課題として挙がることが多いが、まずはオンラインでつながることで、連携のきっかけ作りができた好事例があった。</p>
その他	<p>・たからっ子ノートの見直しは、支援マップを完成させた後に実施していく予定</p>

【今後について】

- ① 支援マップの作成について全体像を把握していく。
- ② トライアングルプロジェクトの事例共有。
- ③ 新たなニーズの把握。